

Magazine of Teikyo  
Alternative Life [フレア]

# Flair

大学生生活の歩き方。



新年度特別号!!

**SPECIAL  
ISSUE**



WHAT'S  
CAMPUS LIFE?







思いがけない出会いや経験を楽しむ余裕を持つ

いろんな人と会話をする

WHAT'S CAMPUS LIFE?



たくさんの人とのかかわりから話したい人を見つける

社会で生き抜くための武器を身につける

好きなこと、やり放題

常にイノベティブであれ!



## WORKSHOP SPECIAL!

## みんなで考える 大学生生活、なにしよう?

学生時代は、長いようで短い。ぼんやりしていると、何もしないまま終わってしまう。それではあまりにももったいないから、未来のために、できることをやっておこう。板橋キャンパスのACLS研究会の学生が、学生時代に自分の進むべき道を見つけた白木夏子さんと一緒に「いま、やっておくべきこと」について考えました。

photograph: TETSUYA ITO text: SATOKO NAKANO

## どんな学生時代から、いまの仕事にたどり着いたんですか?



## TALK MEMBER



GUEST  
白木夏子さん

英ロンドン大学キングスカレッジ卒業後、国際機関、投資ファンド事業会社勤務を経て、2009年にエシカルジュエリーブランド「HASUNA (ハスナ)」を設立。2011年、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞。2014年、Forbes誌「未来を創る日本の女性10人」に選出されるなど、世界的に注目されている。



## ACLS STUDY GROUP



医学部 医学科 5年  
市川尚寛さん



医学部 医学科 3年  
井上隼輔さん



薬学部 薬学科 3年  
関里恵さん



薬学部 薬学科 3年  
柴山拓也さん



医療技術学部  
臨床検査学科 3年  
菊池香苗さん

## ACLS研究会

板橋キャンパスで、医療系学部の学生約140人が所属するサークル。定例会を中心に勉強会や合宿を通して、傷病者に必要なBLS(一次救命処置)とACLS(二次救命処置)の正しい技術・知識の習得をめざす。地域の防災訓練指導など、一般市民への実践的な普及活動にも力を入れている。2016年の「第2回全国医学生CPR(心肺蘇生法)選手権大会」では準優勝の成績を収めた。

留学時代のショッキングな出会いがきっかけでした。

大学には、夢を叶えるのに  
十分な時間と出会いがある。

ビジネスで社会問題を解決するというアイデアを、学生時代の体験から手に入れた白木さん。そんな、自分とは少し違うフィールドで活躍する彼女に質問しながら、大学時代にやっておきたいことを板橋キャンパスの学生たちが見つけていきます。

問「白木さんは、昔からずっといまの仕事がしたかったんですか？」

白木「いえ、本当はファッション業界に進みたかったのですが、ファッションデザイナーの母から大変だという話も聞いていて、諦めてしまったんです。じゃあ何をしよう?とあったものの、何も見つからなかった。それで、祖父が「夏子を海外に出そう」と。祖父は自分が若いころ海外に行きたかったけれど、戦争が

あつて行けなかったんで、自分の夢を孫に託そうとしたのだと思えます」

菊池「進学先は?」

白木「ロンドン大学のキングスカレッジです。でもその前に地元の短期大学に進学して、留学のために英語の勉強をしました。そこでの意外な出会いが、留学先で何を学ぶか決めるきっかけになったんです」

菊池「どんな出会いですか?」

白木「進学した短大は社会貢献に力を入れていて、私も国際協力について学んだり、ボランティア活動をしたりしていました。それで、徐々に人の役に立つ仕事の素晴らしさを感じていったんですね。そんな中、アフリカやインドネシアなどの、貧困や森林破壊といった社会課題を撮影する写真家の方が短大に講演に訪れて、大きなショックを受けました。

「いままでの私は何だったのか」と、自己中心的だった自分を恥じたいですね。それで「この社会課題を解決しなければ」という使命感に駆られ、貧困問題の勉強をしよう、と」

問「すごい縁ですね」

柴山「具体的には、どんなことを学んだのですか?」

白木「専攻は開発地理学。例えばサハラ砂漠にどうやって農業を復活させるのか、といった課題について議論しながらさまざまなことを学び、卒業後は金融機関に就職しました」

菊池「そういうことを学んでいたのに、なぜ金融関係の仕事に?」

白木「私は大学時代にたくさんの国を回り、貧困問題の現状を見ました。あるとき、インドの鉱山で悲惨な労働環境のもと働いている労働者たちに出会ったんです。アウトカーストと呼ばれる彼らはずっと差別さ

## こんな仕事をしています



写真左/パキスタンのファンザ渓谷にあるルビー鉱山を見学。中/各国から集ったエシカルなジュエリーづくりを行う経営者とともに、ペルーの金鉱山を見学する白木さん。右/ファンザ渓谷に住む貧困層の女性たちに向けてジュエリーづくりのワークショップを行った際の様子。





いざというときのため真剣に



活動場所であるシミュレーション室には傷病者役の人形が横たわっており、壁にはプロジェクター経由で救命救急センターの処置室の画像を映し出すことができる。心臓マッサージ、酸素吸入、電気ショック。メンバーが連携して、手際よく傷病者と向き合う様子は圧巻だ。



ACLS研究会のみなさん、大学生活、何してますか？



るんですよ。根本は一緒ですが、大学によってやり方が微妙に違う部分もありますから」

**白木**「それは有意義な時間ですね。サークル活動といえば、私もロンドン大学時代、国連の会議を擬似的に行う模擬国連サークルに所属していました。大会では世界中の大学から代表が集まり、国連の会議システムを使って、出された題目に対して一つの解をつくっていくんです」

**井上**「そこで、文化の違いなどを感じることもありましたか？」

**白木**「もちろん！インドや中南米の人はよく喋るので、終始圧倒されていましたよ。でも、それはそれぞれのお国柄ですね。言葉数の少ないイギリス人が、ポツポツといいことを言っていることも多かったり。そうしているいろいろな人と接したことが、宝石や金を仕入れるときの交渉術にも反映されています。インド人が相手だと、こちらも強気に出なきゃ……とか」

**市川**「それは面白いですね(笑)。逆に、日本人の印象も客観的に見ることができたのではないですか？」

**白木**「そうですね。模擬国連以外に、ダボス会議やAPECの会議などにも出席したことがあるのですが、日本人は日本人同士で固まってしまっていて周りの人とあまりコミュニケーションを取らない人が多いので、それが残念に思います。国際社

れ、子どもたちも働かされている。それをどう解決したらいいかと考えて……卒業後、国連で半年間インターンを経験したのですが、おそろしく国連では解決が難しいと感じたんです。なぜならこの問題は、石を買い叩く人がたくさんいた結果、途上国の労働者たちにしわ寄せがいつてしまったもの。つまり、資本主義の仕組みから変えなければ意味がないから「まずはお金のことを知ろう」と思ったんです」

**井上**「そういう理由があったんですね！驚きました」

**市川**「僕は別の大学を卒業後、看護師として救命センターの病棟で働いていたんです。でも、以前所属していた大学でもっと勉強しておけばよかった、と後悔することが多くて。帝京に入学してからは、悔いを残さぬように救急についてできることをやっておきたかったです。いま、研究会では心肺停止の傷病者に必要なBLS(二次救命処置)やACLS(三次救命処置)の知識と技術を習得すべく頑張っています」

**白木**「すごいですね。ひと通りACLSのシミュレーションを見させていたいただきましたが、本当に頭が下がる思いです。人の命を預かる職業選択をされているだけあって眼差しも真剣ですし、みなさんのような方々に命を救っていただけると心強いなと思いました」

**菊池**「私が所属しているのは検査技

会の中でも、そう言われているのをよく聞きますね」

**柴山**「なるほど。僕も留学制度を利用して、今年の3月にイギリスの帝京大学ダラム分校に3週間留学したんですよ。いろんな人と会話することができそうです。それがひいては自分を客観的に見つめ直したり、周りに気を配ったりするきっかけにもなったなと思うんです。患者さんのためにできることを医療者が能動的に探すことも大事だと思うので、相手を観察できるようにするという意味でも、異文化交流はいい機会だとあらためて感じました」

**白木**「そうですね、フットワークの軽い学生時代に長期で海外に行ってみることをおすすめします。国や所属学部の枠を越えて、一生の友だちもできますしね。去年も私、オランダ人の友人の結婚式に呼ばれてオランダに行ってきたんですよ」

**関**「そういう出会いがあると思うと、より海外に行きたくなりますね。短期の旅行では難しいこともたくさん体験できそうです」

地域社会ともつながります



大学生活ですべきこと、したいこと、みんなで考えました。

師をめざす学科ですが、検査技師にも認定の救急資格があり、例えば被災地で車内生活をされている方々のエコー検査にかかわるなど、活動の幅も広がっています。だから、ACLSを学ぶことはプラスになると思い入部しました」

**白木**「それぞれの理由があつて、興味深いですね」

学内にとどまらない、ACLS研究会の活動内容。

**市川**「研究会では救命処置の知識・技術を学ぶだけでなく、市民を対象とした心肺蘇生の講習会の講師を務めたり、災害訓練の手伝いをしたりと、社会貢献にも力を入れています」

**井上**「最初は医学部で始まったこの活動に、薬学部や医療技術学部の学生も参加し始めて、いまや学科間の交流も盛んです。帝京大学がめざす、さまざまな役割を持った職種が連携して行う「チーム医療」が、サークル活動でも実践できるところが魅力の一つだと僕は感じました」

**柴山**「この活動がないと出会わない人との交流もありますし、講義では習わない手法や薬の使い方も実践でわかってくるのでためになります」

**関**「他大学の勉強会に参加して、多様な救命処置について学ぶこともあ

外を見るのも大切









SPECIAL INTERVIEW

里崎さん、帝京大学で何をしましたか？

「短所は克服してもたかが知れている。でも、長所には無限の伸び代がある」。長所//好きな野球を突き詰めて、数々の栄冠を手にした卒業生・里崎さん。その基盤となった大学時代の過ごし方について、振り返っていただきました。

photograph: TETSUYA ITO, KENJI NAKATA (P13)  
text: SATOKO NAKANO



社会で生き抜くための最高の武器を身につけた。

里崎智也 Tomoya Satozaki

帝京大学経済学部経済学科1999年卒業。徳島県出身。ドラフト2位で千葉ロッテマリーンズに入団し、第1回WBCでは正捕手として日本代表の優勝にも貢献。2014年に引退し、同球団のスペシャルアドバイザーに就任した。現帝京大学客員講師。

好きなことを続けるためにやるべきことをやる。

千葉ロッテマリーンズの捕手として活躍した里崎智也さんは、帝京大学4年生のころ、今春、首都大学リーグで優勝した硬式野球部を22季ぶりのリーグ優勝に導いた。勝因は努力や練習を積み重ねてきたことに加えて、チームの雰囲気や勢いに乗れたことだという。レギュラーとして試合に出場し続けていたことからスキルも上昇し、勝つことでスカウトマンにも注目された。「目の前のことに一生懸命で、気づいたらプロ野球選手になっていた」と本人は語る。

「いまと違い、練習も部の上下関係も厳しく、寮生活をしていたので特に1年生のころは雑務が大変で地獄のようでした(笑)。なぜ頑張れたかというと、野球が好きだったから。それに、辞めたら高校の後輩たちのルートも消してしまうことになる。帝京への進学を勧められた高校の監督や、学費を払ってくれていた親など、僕がそこにいられたのはさまざまな人の協力があったからです。そういう人たちの顔も潰したくはなかった」

里崎さんの「やるべきことをやる」



というスタンスは、そのときから始まっている。練習や雑務で忙しくても、必ず授業には出席。履修した授業の単位は、ほぼすべて取得した。「僕は経済学部でしたけど、正直、経済のエキスパートになれるほど勉強したわけではありません。でも授

主張をしないと埋もれる。こうして里崎さんは徐々に自己アピール術を身につけていった。それがいまの彼のスタイルである、歯に衣着せぬ独自の野球解説にもつながっている。「自分はそんなに強い人間じゃないからこそ、生き抜くために準備が必

業に出て、ノートを取って、課題を提出するのは学生であれば誰もができること。部活でもそうですが、やるべきことをやらないければ自分の意見も通りません。「何を偉そうに言うってんねん」って言われますから」田舎では何かあっても誰かが手を差し伸べてくれるが、東京では自己

要なんです。そのためには自分のダメな部分を理解することがまず大事で、それを補うための経験と実績が自信になっていく。どんなことがあっても対応できる基盤をつくることで、弱心が出てこなくなり、はつきり意見を言えるようになるんです」

硬式野球部へのメッセージ

39季ぶりの首都リーグ優勝おめでとう!

卒業後、ロッテに入団した後も後輩たちの活躍はいつも気になっていました。チームを率いた唐澤監督は帝京大学のOBで、社会人野球を経て、私が4年生の98年にコーチとして戻ってこられた。監督や後輩(選手)チームを支えたスタッフの努力が20年ぶりの優勝をもたらしました。非常に誇らしい。優勝おめでとう!

弱点と向き合う作業は難しい。しかし「学生時代、猶予は4年間もある。社会に出たら、なかなか手に入らない時間です」と里崎さん。「学生は、ある程度の失敗は許されます。取り返しもつきません。大きめに言えば、好きなことやり放題なんですよ。好きなことならいくらでも時間を費やせますし、そうやって生きていけば、就職の面接でも取り繕う必要はありません。ずっと考えて時間を費やしてきたことについて、熱く語ればいいだけの話ですから」

学生時代とは、その本分を全うしながら「自分とは何者なのか?」を知り、未来の自分につながるために好きなことを突き詰める期間。ゆくゆくはそれが最高の武器になると、里崎さんは身をもって教えてくれた。

下/帝京大学硬式野球部4年時、リーグ優勝し、閉会式後にメンバーと撮影した写真。写真上の中央が里崎さん。辛いことも一緒に乗り越えてきたチームメイトとの絆は強い。







コミュニケーション力もUP!



“自分や相手のことをよく理解し、仲間と共に大学生活を楽しもう”というテーマで実施されたスタートアップセミナー。留学生たちは慣れない日本語に苦労しながらも、新しくできた友人たちとの会話を楽しんだ。各グループには、学生ボランティアの「国際交流アシスタント」の姿も。

ワークショップや交流会などのイベントを実施し、留学生をサポートする体制が整う国際交流セクション。日本人学生にとっても、充実した国際交流の機会となっています。

## 2

### 世界が、近い。 @国際交流センター



#### 交流会から就職支援まで 留学生向けサポートが充実。

新年度間もなく八王子キャンパスで実施されたのは、新入留学生向けの「大学生活スタートアップセミナー」。日本での大学生活がスムーズにいこう、新入留学生と学生ボランティア「国際交流アシスタント」が互いを理解し合うためグループワークを行った。参加した留学生からは「自分以外の留学生と交流できてよかった」と喜びの声が上がる。帝京大学では、外国人留学生の受け入れ数が年々増加。それに伴い、

留学生向けのサポートも充実している。学内の「国際交流センター」の窓口で、学生生活についての相談はもちろん、日本での就職活動に関するガイダンスや留学生向けインターンシップを行うなど、卒業後に向けてのバックアップも万全だ。今年からは、留学生と、彼らをサポートする日本人学生が共同生活する「国際寮」も新設され、留学生同士だけでなく留学生と日本人学生が交流する機会もますます増えていきそう。イベントや交流会も定期的開催される予定なので、ぜひ積極的に参加して、国際交流の輪を広げよう。

グローバルな輪、広がります



## PART 2

### もっともっと利用しよう。帝京大学でできるコト。

大学生活を有意義なものにしたい。その思いはみんな同じ。だけど、なにから始めたらいいかわからないなら、まずは帝京大学でできるコトを見直してみよう。八王子キャンパスを例に、みんなの“いま”と“未来”につながるヒントを探しました!

photograph: MAKOTO KUJIRAOKA(p14,16,17), JUNSUKE OBI(p15) text: SATOKO NAKANO(p14,16), NAOMI HAGA(p15), KENTARO MATSUI(p17)

## 1

### 知識も知恵も、ある。

@図書館



読んでおいてほしい1冊

中嶋グループリーダー推薦の1冊が「読書力」(齋藤孝著・岩波書店)。今まで無意識に読んでいた本から有益な情報を「集める」「抜き出す」方法がわかりやすく書かれている。情報化社会の中で能動的に考えるためのヒントが見つかるはず。

八王子キャンパス内にあるメディアライブラリーセンター(MELLC)が進めてきた読書推進プロジェクト、それが「共読ライブラリー」。同じ本でも、他の人はどう感じているのか。悩んだときには、何を読めばいいのかわからない。誰かの言葉がきっかけになって、新たな本への扉を開いてくれる。ワクワクする空間がここにあります。

いい本や、いい図書館には  
好奇心の素がいっぱい。

2012年に始まった「共読ライブラリー」には、本のお薦めコメントが書ける黒板本棚や、本を介して質疑応答が行える「MONDO」など、本を手に取りたくなる企画や仕掛けが充実。読書だけでなく、図書館や本屋で過ごした体験も興味の幅を広げるきっかけになるため、「時々でもここを訪れて、好奇心の素を探してほしい」とMELLCの中嶋康グループリーダーは話す。

職員とともに共読ライブラリーを推進するのは、読書術などの研修を積んだ共読サポーターズ。MELLCの中嶋恒子チームリーダーは「研修の後、彼らが読んだ本について話し合っているのを聞くと「しっかり読み込んだ」ということがわかる。人が本を読んで変わっていく様子は見ていて感動的です」と語った。気軽に立ち寄って本をめくるのもよし、共読サポーターズとして本気で参加するもよし。人生を変える一冊との出会いがあるかもしれない。



●八王子キャンパス・メディアライブラリーセンター

蔵書76万冊、1800席の快適な読書・学習空間。PCステーション、グループ学習室など、レポート作成やグループワークに最適だ。

#### FACILITY 他キャンパスの図書館

●板橋キャンパス・医学総合図書館



2012年に医学図書館と薬学部図書館を統合し、医学総合図書館を新設。医療系専門書を重点的にそろえた医療系拠点図書館として、板橋キャンパス3学部を中心とするニーズに応える。

●宇都宮キャンパス・図書館



高書架から低書架にすることで、安全性と明るい室内環境を保つように配慮。また、東日本大震災による図書の損害を教訓に、電子ブックの導入を進めるなど、快適な利用環境が整う。

●福岡キャンパス・図書館



閲覧席は約140席。視聴覚席、多目的利用のグループ学習室など、用途に合わせた利用が可能。約87,000冊を収容できる書架には、各専門図書を継続的に閲覧できる環境を整えている。







### 3 未来が、明るい。 @キャリアサポートセンター

各キャンパスではともに将来を考えるための授業が1年次から履修できます。八王子キャンパスのキャリアサポートセンターでは、「どんな大人になりたいのか?」「どんな大人になりたいのか?」からキャリアを考え、徐々に資格取得や就職活動に必要な知識や考え方を身につけていきます。



まずはインターンシップについて学ぼう



3年生を対象とした「インターンシップ」の合同授業。この日は仕事に欠かせないチームの結束力を高めるための「ストロークタワー」というグループワークを行った。また毎回必ずリアクションペーパーを活用した振り返りを行い、授業内容の確認と同時に文章作成の習慣をつけている。

### 未来への不安が期待に変わる 充実したサポート体制。

八王子キャンパスでは、将来について考える「キャリア教育科目」が1年次から履修できる。進路について週に一度は向き合う機会をつくるねらいだ。「先日は入学前ガイダンスで新入生に対して、等身大の先輩の代表として卒業式を終えた新卒生に、学生生活や就職活動の経験談を語ってもらいました。やはり先輩が発する言葉は、時に我々教職員の言葉よりも響くことがあるようです」と話すのは、キャリアサポートセンターの田口仁センター長。「何がやりたいのか、わからない」学生たちを、長年親身になって後押ししてきた。

### SUPPORT 他キャンパスのサポート

#### ●板橋キャンパス



求人票の検索・閲覧はもちろん、就職基本講座(自己分析+面接対策)、小論文対策講座、就職相談(履歴書添削・模擬面接・個人面談)、国家試験対策などの、各種就職支援行事も。

#### ●宇都宮キャンパス



面接・筆記試験対策だけでなくスーツの着こなしまでレクチャー。企業の人材ニーズなどの情報については、八王子キャンパスとも連携。また、留学生向けの就職支援も行っている。

#### ●福岡キャンパス



特に地域との共存をテーマとする福岡キャンパスでは、2年次より段階的に臨床実習を開始。ネットワークを生かし、実践的な知識と技術が習得できる実習先を確保している。

#### ●八王子キャンパス



「ライフデザイン演習」「キャリアデザイン演習」など、大学トップレベルの支援プログラムで学生個々人のキャリア実現をサポート。

どうすればうまく  
つくれるかな?



### 大学生活の意義は、 チャレンジすることにある。

新入生のみならず、ご入学おめでとうございます。これから帝京大学で専門的な知識を養い、さまざまな経験を重ねながら、社会へ巣立っていかれることでしょう。充実した学生生活を送られるよう、帝京大学では、「実学」「国際性」「開放性」という3つの教育指針を掲げています。



「実学」は、社会で能力を発揮するため、知識や論理的思考を身につけて、それを実世界での活動を通じて更に深掘りすることです。日本の将来を担うみなさんには、蓄えたその力で将来の社会環境の変化に対応できる新しい技術の開発や新しい産業の開拓に携わるための**創造力と実行力**、そして**連携力**を「実学」によって培ってほしいと期待しています。

「国際性」は、自分の視点を確立し、国際的な視野に立ったもの見方で異文化を理解すること。ここ数年、国内では地方創生という言葉がよく聞かれますが、地域に新たな可能性を見出すためにも、世界の多様な背景を持った人々と意見を交わし、理解しようと努めることが重要になります。海外に本学のキャンパスを設け、連携する海外の大学で活発な交流ができる環境を整えているのもそのためです。このような環境を積極的に活用し、自らの活動範囲を広

げる素地をつくってください。「開放性」とは、自らの個性を生かすための環境を自らつくり出す指針です。このために自分なりの視野を大切にするとともに、多様なものの見方を育み、寛容な心を養うよう、知識や技術を偏りなく学ぶことが大切となります。これら3つの指針が示す姿勢をバランスよく身につけることで、本学の教育理念である「**自分流**」が得られるはずですよ。「自分流」とは、**自立した人間**として責任を持ちながら社会に対して働きかけていくこと。失敗を怖れず、学生の間だからこそできるさまざまなことに**チャレンジした経験**を自分のものにし、成長するチャンスをつかんでください。数年後、大学生活を終えるときに**どんな自分**になっているのかを常に考えながら、仲間と一緒に、目標に向かって挑戦されることを願っています。

### 自分が、見つかる?

@帝京大学

自ら考え行動し、社会を動かす、「教養」ある人間に。



理事長・学長 冲永佳史 Yoshihito Okinaga

1973年東京都生まれ。慶應義塾大学理工学部を卒業後、同大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。現在、学校法人帝京大学理事長、帝京大学学長、帝京大学短期大学学長。2014年には保健医療分野の教育・研究活動などが高く評価され、米国ハーバード大学客員教授に任命される。





## 卒業生ものがたり。

今回の主人公



里崎智也さん(元プロ野球選手)

卒業生の人生を作家・高橋源一郎さんが紡いで、架空の「ものがたり」に。今回は里崎智也さん(p12-13)が語る(風)、野球と帝京と人生のストーリー。

illustration: JIN KITAMURA

## わたしを野球に連れてって 高橋源一郎

野球は、「プレイ、ボール！」の一言で始まるんですよ。これ、「ボールで遊べ！」ってことなんです。何万人も観客が集まって、じつと視線が注がれる。どこに？ それは、主審とキャッチャーとバッターのいるホームベースのあたりです。やがて、主審が右手をあげて、「さあ、野球をして遊ぼう！」って声をあげる。それから……ほんとうに素晴らしいことが始まるんです。

ぼくはキャッチャーだから、ずっと、主審がぼくのすぐ後ろで「プレイ、ボール！」っていう声を何千回も聞いてきました。なんだか、自分が声をかけているような気がする。そして、試合中は、いつも夢を見ているような気がするんです。

その声のあと、ピッチャーがボールを投げる。バッターがバットを握りしめ、自分のスタイルで構える。ほんの一秒にも満たない時間、すべての観客や選手たち、テレビを見ているファンの視線が、そのボールに集中する。バットにボールが当たった瞬間、選手たちが一斉にグラウンドの上を動く。流れるように。その動きはほんとうに美しい。どんな名画より、つていいんだけど、実はあまり知らないんです。

一球一球的のボールに興味があるんです。それが複雑に組み合わされて、試合が成立する。ぼくは、ピッチャーが投げるすべてのボールの意味を説明することだってできます。野球は……ほんとうに素晴らしいゲームなんです。そうですね……ぼくは、ちよつと変わった選手だったかもしれない。「強いところより出

られるところ」って思っていました。名門チームってあるでしょう？ 高校でも大学でもプロ野球でも。そう、いまならメジャーリーグそのものが、日本人選手にとって「名門」ってわけです。そのチームに入ることに憧れるでも、ぼくは、そんなことに意味があるのかな、って思っていました。名門チームに入れても、その補欠だったら、試合に出られない。あの、素晴らしい時間に参加できない。そんなの耐えられないじゃないですか。だから、帝京に入ったのも、マリーンズに入ったのも同じ理由です。結果として、どちらも優勝したんですけれどね。そうそう、ワールドベースボールクラシックでも世界一になったし。結果は、ついてくるものなんです。

自分のことを素晴らしい選手と思うかって？ そりゃあ、ぼくは名球会にも入ってないし、ホームランだってプロ通算で100本ちよつとしか打ってない。それどころか、日本プロ野球不名誉記録タイの5打席連続三振だってして。でも4年連続で満塁ホームランも打ってる。「当たるも八卦、当たらぬも八卦のヤマ張りバッティング」なんです。でも、ファンのみなさんは、ぼくがほんとうにチームのためになるところで打つことを知っていたと思います。なぜ、打てるかって？ それは……誰よりも野球が大好きだからじゃないですか……ああ、いま打たなきゃ……そう思うと、他の何も目に入らなくなるんです。ボールとぼくだけしか存在しない。そんな感じがするんです。実は、ぼく、すごい記録の持ち主でもあるんです。1000

試合以上出場したキャッチャーで、パスボールの数が通算最小の19なんです。要するに、ピッチャーの投げたボールを、日本でいちばん、うしろへ逸らしたことがないキャッチャー、つてわけです。ちなみに、通算の数だけじゃない、何試合に1回パスボールするかでも史上最少です。53試合に1回だから、まあ、1年に2回ですかね。それでも多いと思うけど。どうして、そんなことができるかって？ たぶん、それは、最後までボールを見ているからじゃないかな。だって、ボールより美しいものなんか、この世にないんだから、ずっと見ていたいんですよ。

だから、ぼくはすべてを野球から教わったのかもしれない。帝京ではずっと寮生活をしていました。ずっと野球漬けです。でも、野球は好きだから苦しいと思っただけのことなんかありません。授業もちゃんと出だし、ノートもとつたし、レポートも出しました。勉強も苦にならなかった。まあ、あまりでかばは良くなかったかもしれない。野球がメインで入学したからといって、甘えちゃいけない。そう思ってたから、頑張ったんです。自分の実力以上のことはできない。だから、できることは全部やってみようと思っただけ。これも、野球が教えてくれたことなんです。夢をただの夢にしていちゃいけない。実現する可能性のない夢なんて、そんなの夢じゃない。届く夢を持って、それから、一つ一つハードルをクリアしてゆく。好きなことなんだから、それぐらいできるはずですよ。徳島から東京に出てきて、いちばん感じたのは、自己主張し

なきゃ誰も助けてくれない、つてことです。でも、そんなこと、野球をやっていたら当たり前なんです。ぼくはキャッチャーというポジションで指示をずっと出している。ピッチャーはぼくの指示にいつも従うわけじゃない。ぼくが「このボールを投げて」とサインを出しても、首を横にふったりする。バッターはバッターで、彼らの主張がある。内角をぐいぐい攻めて、腰が引けるようじゃ、バッターとしては生きていけない。グラウンドは、夢の場所であると同時に戦場でもあるんです。それは社会に出ても同じじゃないですか。学生さんたちに何かしゃべつて、つていわれると、そのことを言いますね。誰だつて、いいところと悪いところを持つてどつちかというところ、悪いところの方が多いかもしれない。いいところ、得意なところ、好きなところを伸ばしてゆく。失敗したつていいじゃないですか。大学は4年間あつて、失敗が許される場所なんです。ぼくは、4年間、ずっと寮で暮らして、野球ばかりやってきました。なんか大学と関係ないのかなあ、と思ったりもしたけれど、そうじゃない、つてわかっただけなんです。

ぼくは野球から何でも教わってきた。他の学生たちは、ぼくが野球から教わったように、何かを学べばいいと思うんです。それでも悩むことがあつたら……そうですね、もし来たことがなかったら、一度、野球場に来てみませんか。目の前で、何かに、ほんとに夢中になってやってくる人間たちがいるのを見てみる。それは素敵なことだと思うんですけどね。

みんなの人生も一つの「ものがたり」です



たかはしげんいちろう／小説家、文学者。1951年、広島県生まれ。81年『さようなら、ギャングたち』で群像新人賞優秀作を受賞しデビュー。『優雅で感傷的な日本野球』で三島由紀夫賞受賞など。著書他多数。11月には『丘の上のバカ ぼくらの民主主義なんだぜ2』（朝日新書）など3冊を刊行した。

書いた人はこんな人！







## Editor's Note

果てしなく続くようで卒業後に振り返ってみれば、あっという間だったと誰もが口を揃えて言う。それが、大学時代。卒業するとき、社会へ出たときに「帝京大学でよかった」「いい大学生活だった」と思いたい。だからこそ、大学時代という特別な時間をめいっぱい有意義に使っていききたいもの。これからの何年かをどんな風に過ごすかで、きっとみんなの人生はまったく違うものになるはずですから。……とは言え、大丈夫、大学の包容力は半端ではありません。不安になる必要はないんです。大学は、何度でもトライアンドエラーが許される特別な場所。道に迷っても何回でも戻ってこられます！ まずは来春までの10ヵ月間、「何する？どこ行く？誰と過ごす？」を繰り返して、考えながら過ごしてみようか。

## Flair

vol.106  
June 2017 Summer  
THE TEIKYO SELF

制作 Mo-Green  
発行 TEIKYO UNIVERSITY

cover photograph  
TETSUYA ITO  
cover illustration  
JUNJI NAKAMURA

## Report

ラオス国立大学と帝京アジア交流プログラム協定を締結。

2月17日、ラオス国立大学学長一行3名が板橋キャンパスに来学、帝京大学アジア交流プログラム(TAEP)の協定締結式を行った。TAEPはベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、フィリピン、ラオスの7カ国の大学と協定を結び、アジアの経済発展に貢献する人材の育成や日本人学生の国際化を目的に、2015年度から留学生を招き入れ、グローバル人材育成をめざす。

## Report

2016年度スチューデントドクター認証式を実施。

3月10日、板橋キャンパスにて医学部新5年生を対象としたスチューデントドクター認証式を行った。スチューデントドクターは一定レベル以上の知識と技量を有していることの証明であり、認証を受けた医学生は医療行為を大学(病院)が保証する制度。学生たちは自分の名前が刺繍された白衣に袖を通し、医師をめざす者としての自覚や責任を再認識し、決意を新たにしていた。

## Information

帝京大学みらい創造募金制度のご案内。

2017年4月より「帝京大学みらい創造募金」制度がスタートしました。学生の経済面をバックアップする「学生支援」をはじめ、「キャンパス環境整備」「医療の充実」「スポーツ支援」など、目的別に寄付を募集するもので、インターネットを利用し簡便にご寄付いただけます。皆様からの温かいご支援をお待ちしております。問い合わせは本学本部会計課(03-3964-1215)まで。

## Report

第2回女子企画「リケジョが支える日本の未来!」を開催。



3月12日、帝京大学宇都宮キャンパスにて第2回女子企画「リケジョが支える日本の未来!」が実施された。理工学部がある本学宇都宮キャンパスと帝京大学女性医師・研究者支援センター共催の本企画。今回は理系企業の第一線で活躍している女性研究者や女性技術者等を招き、理系企業の実態や

働き方、やりがい、職場環境などについて語ってもらった。当日の参加者は中学生・高校生・大学生、保護者、教員と幅広く、また講演後に行われた総合討論では、参加者から時間が足りないほどたくさんの質問が寄せられた。これを機に、女子学生の理系選択がますます進むことを期待したい。

## Report

「東京マラソン2017」に救護活動ボランティアとして参加。



2月26日、国内最大の市民マラソン「東京マラソン2017」が開催され、医療技術学部スポーツ医療学科・村田宣夫教授、同・小川佳子助教、スポーツ医学センター・加藤基講師とともに、56名の学生が救護活動ボランティアとして参加、36,000人のランナーたちを陰から支えた。参加した医療技術学

部スポーツ医療学科健康スポーツコースの岡村遙一朗さん(4年)は、「目の前の人を助けるために何が必要か考え行動することが難しいことだと学ぶ機会となりました」と振り返った。ボランティア活動を通してより実践に近い救護・支援活動を体験した学生たちの、さらなる成長が期待される。

福岡医療技術学部理学療法学科長  
兼 作業療法学科長代行

福田 猛 教授  
Takeshi Fukuda

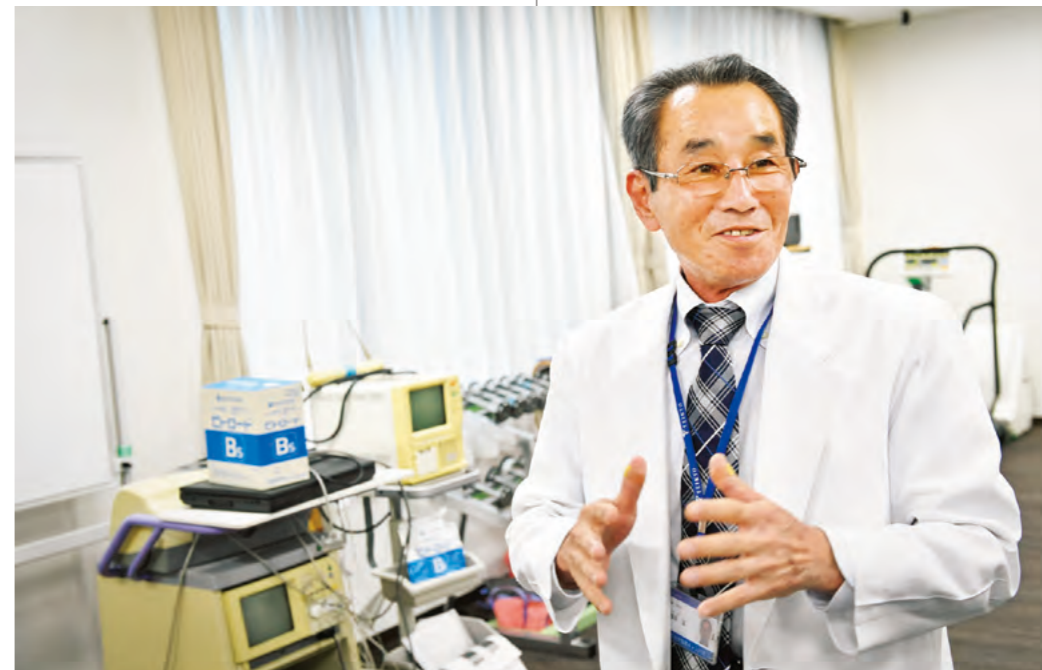
1972年九州リハビリテーション大学卒業後、熊本労災病院リハビリテーション科に入職。97年技師長に就任し、2008年九州労災病院リハビリテーション科技師長。退職後、10年4月より現職。

TEIKYO PEOPLE. NO.03

あの一とに聞きました。

photograph:MASASHI ASADA text:KENTARO MATSUI

理学・作業療法士に求められることは?



福岡キャンパスで理学療法学科長兼作業療法学科長代行を務める福田先生。超高齢社会に向かういま、理学療法士や作業療法士のニーズは高まっているが、「その質が問われています。臨床実習のあり方が国会で議論されるほど」と指摘する。

そんな現状を受け、理学・作業療法学科の授業では骨と筋肉のつき方を詳細な写真で示した教科書を用い、筋肉の幅や厚み、重なりなどを学生が互いに触察しながら理解する難しい授業を行っている。知識と技量に加え、患者や家族とのコミュニケーション能力も重要と考える福田先生は、労災病院の技師長として38年間勤めた貴重な経験も授業で話す。「患者さんの肘の可動域を広げる治療を行っていた際、私の不注意で骨が欠けてしまいました。あの音は今も耳に残っています。深く謝罪すると、「先生、心配せんでいいけん」と声をかけてくださり、涙が出そうでした。ミスが許されない現場だという教訓を学生に伝えています」

実学に重きを置いた講義に、学生たちは真剣に取り組んでいる。

医療現場での貴重な経験を失敗も含めて学生に伝える。



九州労災病院を退職するとき、スタッフから記念に贈られたバタークラブ。以来、このバタークラブを使っています。スタッフの気持ちがこもっているから、入るんです」と笑顔。



九州労災病院を退職ときに家族から贈られた、退職祝いの腕時計。奥さんと息子さん夫婦、娘さん夫婦、そして孫たちからプレゼント。7年ほど愛用している。



還暦祝いの会で、友人たちからお祝いに贈られた万年筆。「小さめで、書き味は滑らか。普段はボールペンを使いますが、ここぞというときは万年筆で書きます」とのこと。

大切にしているモノは?



## これから、どこへ行こう？



自分って  
どこに  
いるの？



発行月：2017年6月(年4回発行) 発行：帝京大学本部広報課  
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1  
TEL: 03-3964-4162 URL: [www.teikyo-u.ac.jp](http://www.teikyo-u.ac.jp)  
© 帝京大学 2017 禁・無断転載